



7,200haの果樹園を潤す南予用水 【愛媛県南予地区】



南予用水の受益地は、宇和島市、吉田町、明浜町、三瓶町、八幡浜市、保内町、伊方町、瀬戸町、三崎町に渡っている



南予用水がで、干ばつの驚異から解放された



糖度のコントロールが容易になり、品質が向上した



右は、干ばつの被害で、ひび割れたみかん

「耕して天に至る」だんだん畑

四国・愛媛県の南西部に位置する南予地区は、海岸に面し、山の斜面一面にだんだん畑が築かれています。その傾斜は強く、「耕して天に至る」と形容されるほどです。ここは、みかんなど柑橘類が全農地の約90%で栽培され、柑橘類生産量日本一を誇る愛媛県のなかでも、一大生産団地となっています。昔から「天日」、「海からの反射」、「だんだん畑の石積みの照り返し」という「3つの太陽」がおいしいみかんをつくってきました。

けれども、急峻な地形だけに河川はなく、雨が降っても急流となり、すぐに海へ流れ出てしまうため、水不足は深刻でした。とくに1967年の大干ばつでは、井戸を掘ったり、船で水を運ぶなど、みかんの樹を守る闘いが続けられたといえます。当時、みかんの樹が枯れることは防げたものの、樹の痛みはひどく、農家の損害は大きなものでした。そのため、この大干ばつが契機となり、1974年に南予用水事業が着手されたのです。



国営の施設から送水された水を、県営かんがい排水事業で整備したスプリンクラーで散水する

いのちの水として

南予用水は、山間部の野村町に野村ダムを建設することからはじまりました。そしてパイプラインは、宇和海から伊予灘に伸びる海岸部の尾根を走り抜け、2市7町にまたがって、総延長約180kmにも及んでいます。その間、揚水機場21カ所、ファームポンド（調整池）37カ所が設置されています。そして、7,200haの畑地を潤し、道前道後用水と並び、県の二大用水となりました。また南予用水は、上水道としても利用され、17万人のい

のちの水ともなっています。

現在は温州みかんを中心に、いよかん、清見タンゴール、ぼんかん、甘夏、ニューサマーオレンジなど多彩な柑橘類が栽培され、安定した生産が可能になっています。南予用水ができたことで、農家が安心して農業を行えるようになり、品質が向上したほか、急斜面での水やりや防除を行う作業が楽になったといえます。地域を支え、おいしさをつくる南予用水。その働きはますます広がっています。

生態系に配慮した水路 【岩手県いさわ南部地区】

散居集落を走る水路だからこそ

岩手県胆沢平野に広がる美しい散居集落の田園風景。扇状地ゆえ水が乏しく、約450kmにも及ぶ用水路とため池が築かれてきました。ここは、田んぼのなかに屋敷が点在し、「えぐね」と呼ばれる屋敷林があり、水路が網の目のように張り巡らされ、多くの生きものや貴重な植物の生息地となっています。

そこで、1998～2009年度まで行われているいさわ南部地区の事業では、生産性の効率化や経営規模の拡大を図ろうと、水田と農道や用排水施設を一体的に整備し、大区画の農地へと再編成を行っています。と同時に、散居集落独自の景観に配慮し、古くから形成されてきた自然体系を壊さないよう、さまざまな工夫が施されています。

たとえば、基幹となる原川排水路には、魚の遡上を目的とした階段式の落差工や水路の底にコンクリートを張らず2面張りにし、魚巣ブロックを配置するなど、きめ細かい施工が随所で行われています。



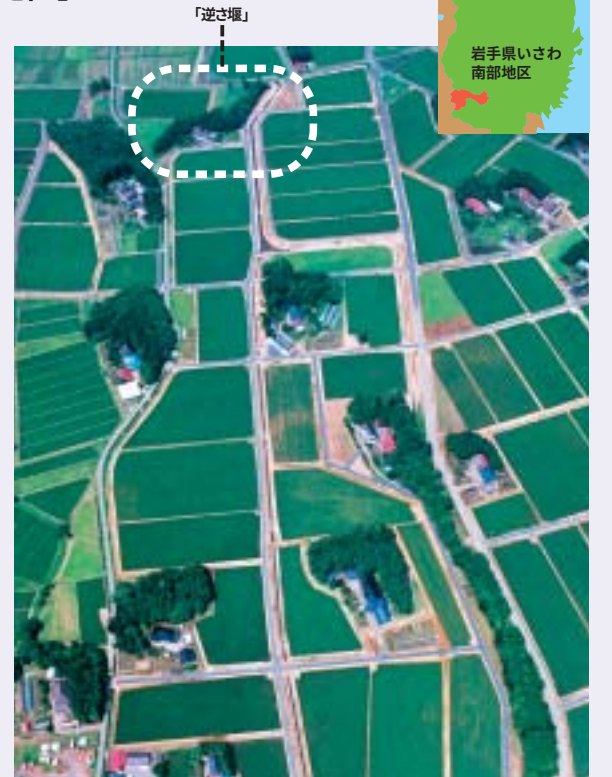
階段式落差工が施された排水路



生きものの用の脱出スロープが施されている



現況保全で残された水路



まん中、上にあるのが「逆さ堰」。そこから縦に細い川排水路が通る。右の林の連なりが現況保全地区

農道も舗装されるため、地中に道路を横切るカエルなどの生きものの用の道をつくったほか、ほ場内の小排水路にも生きものの避難用スロープや小動物の移動用

栈橋なども設置しました。昔から、家の近くの田んぼでカエルが卵を産むような地域だからこそ、水辺環境を守る水路整備が進んでいます。

美しい景観をつくる農業用水 【山形県寒河江川下流地区】

二ノ堰の眺めに魅せられて

山形県寒河江市は、山形県のほぼ中央に位置し、稲作とサクランボなど果樹栽培がさかんな地域です。市の北側には寒河江川が流れ、ここには約700年の歴史をもつ昭和堰や高松堰といった古い水利施設があり、人々の生活とともに地域の文化をつくってきました。こうした地域の特性と調和した水利施設の整備を行うため、寒河江川下流地区では、地域の意見を踏まえ、景観、歴史、生態系の保全に配慮した整備を進めてきています。

この地区にある二ノ堰用水路は、昭和堰から取水し、約730haの水田やサクランボ畑を潤す、長さ約5kmの農業用水路です。近年、水環境整備事業などで水路に沿って、散策道や親水公園が整

備され、人が集まる場所に生まれ変わりました。二ノ堰の眺めは美しく、後ろに月山、少し角度を変えれば葉山を仰ぎ見ることができます。そして、その脇にはサクランボ園があり、春は桜、6月はサクランボ狩りと、新たな観光スポットとなったのです。

また、音楽会や親子マラソンなどイベントも行われ、ジョギングコースとしても利用されています。水路整備を契機に「グラウンドワーク二ノ堰」も立ち上がり、地元企業や住民、水土里ネットなどが力をあわせて、除草や花壇などの清掃管理もはじまりました。



古い蔵を移築復元した管理棟と水車小屋



親水公園では、さまざまなイベントが開催されている

二ノ堰の背景には月山が見える。柵は木製。案内板も設置されている

